

校内適応指導教室（ひまわり教室）について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、教室に入れない、もしくは教室にて継続的に授業を受けることに困難さを抱える生徒である。また、校内別室に通う生徒には、集団行動が苦手であったり、コロナ感染後の後遺症で長期欠席が続き教室に入りづらくなったり、起立性調節障害から情緒不安定を呈した生徒たちが登校してきている。

具体的な取組

教員免許を保有している「学級支援員」が道徳科の個別指導を行っている。学級で意見を言うことが困難でも、一対一であれば自分の意見を伝えることができ、自分だったらどうするかを考える時間を設けることができている。



区の事業として、「家庭と学校の支援員」が1名、週に2回派遣されている。折り紙や楽器演奏など、生徒の興味に合わせた活動を行い生徒ここに応じた支援に取り組んでいる。



区および都から派遣されているスクールカウンセラーが定期的に生徒や保護者との個別面談を行っている。生徒の状況について全体で情報共有し、チームで支援している。



家庭科や美術、技術などの制作をすることを好む生徒が多い。そのため、教科担任が定期的に個別指導を行い、課題を校内別室で取り組んでいる。



成果

小学校では不登校だった生徒が校内別室に登校できるようになっている。継続的に別室に登校できるようになってきたため、授業に参加する生徒も出てきた。校内で教室以外の居場所をつくることで、完全不登校の未然防止につながっている。

課題

日によって生徒のメンバーや雰囲気が変わり、一人一人の目的が違うので、常に情報共有し、組織的に対応していく必要がある。

生徒の自信を高め教職員間の確実な情報共有を目指した別室運営

不登校児童・生徒の状況

各クラス1～3名程度の不登校生徒がいる。小学校から引き続いている場合や、入学後、気持ち新たに登校しようとするが継続せず不登校に戻る場合もある。保護者の登校を促すサポートが不十分であり、学校と家庭で協力体制をとることが難しい場合も多い。不登校傾向が高まる理由として、生活のリズムが整わないこと、本人に特性があること、学習やコミュニケーションで特別な支援が必要であることなどがある。

具体的な取組

校内別室（SSR）対応担当教員との連携

情報共有ファイルを用い、別室対応担当教員と SSR に登校する生徒についての情報共有を行う。また校内で共有されている SSR 運営マニュアルに従って SSR を運営し、その中で生じる懸念や課題、マニュアルにない対応について、常に情報共有、判断を仰ぎ早期対応を行う。

出席状況を把握する表示の工夫

職員室内の各学年の連絡用ボードに SSR 登校対象生徒が登校したことが一目で分かるプレートを設置した。担任や学年の教員が SSR にいる生徒の登校状況を把握できるので、SSR に行って生徒に声を掛けやすくなるとともに、生徒が疎外感を感じることをないようにしている。

生徒の自信を高める工夫

SSR で取り組んだ内容が分かる記録表を作成した。生徒が学習内容を記入し、支援員のチェック後、持ち帰る。保護者に見せて次の登校の際に持参する。登校実績が可視化できることで、生徒の自信につながるようにしている。



学級担任や学年教員との情報共有

生徒との会話や様子で気になることがある際に、学級担任等に機を逃さず伝えられるよう、情報共有シートを作成、運用した。これにより支援員と学級担任等との情報共有をスムーズにするとともに、SSR に登校した時の様子を担任が保護者に伝えることができるようにしている。

成果

- ・ SSR の運営にあたり、開室時間帯に付く人員が増えたことで、教職員の負担が軽減された。
- ・ 生徒の状況や特性に応じた細やかな対応ができる。また、別室登校が自信になり生徒の教室復帰への抵抗が軽減され、不登校の解消につながっている。

課題

生徒が学級担任よりも支援員を頼りにしすぎてしまうことがある。それによる行き違いが生じないようにすることが課題である。